

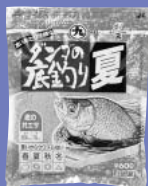
ウドンセットの浅ダナ釣り

(タナ1m前後)

●メーター規定で効果抜群のブレンド

(時期や釣りスタイルに関係なく幅広く使える)

バラケ ダンゴの底釣り夏100cc+新B200cc+軽齧200cc+スーパーダンゴ200cc+水200cc



+



+



+



+



●作り方/すべての粉をボウルに入れ、手を熊手状にして全体をかき混ぜる。そこへ水を加え、水が全体に染み渡るように、約30回くらいかき混ぜてできあがり。この基エサはなるべく日に当てたり、練りこんだり

いうことはせず、使う分だけ小分けして別なボールで調整することをお勧めする。また、タナが1m未満のカッツケ釣りにおいては、「ダンゴの底釣り夏」のかわりに、「特S」200ccに変更する。

●釣りのコツ

まずは寄せ打ちしよう。くわせエサの周りにへら鮒が寄っていきなくてはすべてが始まらない。トップの先端が出るくらいの大ささのバラケをなじんだら切り、なじんだら切りを繰り返す。サワリが出始めたら、バラケがなくなつてから「ツン」と食いアタリが出るかどうかを確認する。なじみこむまではどんな形でもよいが、なじんでからサワリが持続し、さらにはバラケがなくなつてもサワリが続くことが大切だ。理想は、弱くサワリながらなじんでいき、なじんでからも弱いアワリが持続し、やがてバラケが落ちる。くわせだけになつてもサワリがあり、まもなく「ツン」と食いアタリが出て、1枚ゲット



というものだ。バラケの量が足りないときは、魚がいなくなりサワリはなくなる。また、バラケが必ず以上にバラケすぎていると、ウキが立たなくなつたり、大きなサワリだけで食いアタリが出なくなる。バラケ具合が合っていないと、大きなバラケのほうがサワリが持続場合と、その辺りを見極めるのが、この釣りの面白さといえる。

●ペレット効果で寄せる「粒戦」入りの爆釣ブレンド

(ペレットが入っていないバラケでは手直しをしても食いアタリが出ないとき)

粒戦 100cc + 水 200cc + 新B 200cc + 藻べら 200cc + セット専用バラケ 200cc



●作り方/まず、ボウルに「粒戦」を100cc入れ、そこへ水を200cc注ぐ。この時点でボールをゆすり、全体に水がゆきわたるようにする。次に、「新B」200ccと「藻べら」を200cc加える。ここで、一度全体をかき混ぜる。

水が全体にゆきわたったら少し放置し、そこへ、「セット専用バラケ」200ccを加える。麩が全体にゆきわたるようにかき混ぜてできあがり。

ここがポイント①

サワリがあるのにアタリが出ないとき

水中の状態は、へら鮎がバラけた麩をほとんど食べてしまい、くわせエサの周りにバラけた麩が少ない状態である。バラケの重さはあっているのでも、くわせも食べなくなるバラケ方にする必要がある。修正法は、バラケをハリに付けるときに2~3回押し、速度を加え、バラける速度を

抑えること。こうすることによって、くわせの周りのバラケの量が抑えられ、もっとエサが食べたいへら鮎はくわせエサを食べてしまうというわけだ。この方法でもダメで、バラけた麩だけを食べているような状態のときは「抜きバラケ釣法」を試してみよう(5ページ右下参照)。



ここがポイント②

アタリがあるのに釣れないとき

理由①バラケにカラツン

両ダンゴのときと同じく、バラケに手水を打って柔らかくしていき、バラケも食べられるような状態を作ってやる。そうすることによって、上のエサも下のエサも交互に食べてくるようになる。この時期は、このような状態が最も釣果が延びる。



理由②へら鮎が少なくエサで遊んでいる

食い気のあるへら鮎をくわせの周りにもう少し多く寄せてやる必要がある。まずバラケをひと回り大きくし、下のハリスを長くしてやる。



■バラケの手直し

ウキが沈没するようななら、バラケの素材を軽くしてやる。基エサに100ccの水を加え、そこに「スーパーダンゴ」200ccと「白べら」200ccを加える。この手直しによって、ウワズリの状態になったら、次にポイント③のウワズリの対応と同じ手直しをしよう。



くわせエサ

くわせ①

特選わらび彩1分包
+水130cc



くわせ③

カ玉&カ玉大粒



●作り方/ナベで煮て作る「特選わらび彩」は標準水量が120ccだが、浅ダナでは水130ccで作る。そして、太め（7～8mm）に絞っておくことをお勧めする。太めに作っておくと、細かい方がよい場合は切りながら使えるが、細く絞ってしまうと太くしては使えない。また、太いものを切りながらというのは面倒くさいといわれる方には、はじめから、太いものと細いものを作っておかれるとよいだろう。

くわせ②

感嘆7.5cc+感嘆Ⅱ7.5cc
+水25cc

●作り方/まず、カップに25ccの水を用意。このカップはしっかりと蓋ができるものがよい。別なカップに「感嘆」と「感嘆Ⅱ」を7.5ccずつ入れ、よくかき回したら、水25ccの入っているカップに粉をいれ、すばやくフタをして、シェイクする。シェイクは中の水分が固まって、音がしなくなるまでやる。フタを開け、20回くらい押し練りする。粘りが出たのを確認し、ポンプに詰める。

オモリ 実寸大

タナ50cm以内

0.25mm厚の
板オモリ

6mm×10mm

タナ1m以内

0.25mm厚の板オモリ

6mm×10mm

10mm×15mm

から

ここがポイント③

アタリがなくなったとき(ウワズリ)

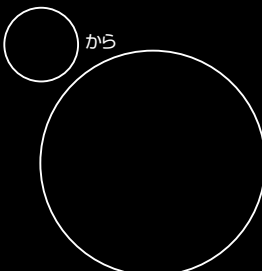
「セット専用バラケ」を50cc加えて熊手でかき回し、バラケをやや硬くして聞き抑える。アタリがなくなったのはいつか理由が考えられるが、ひとつはウワズリ（くわせの位置より魚の位置が上に行ってしまうこと）が考えられる。この場合は、くわせの位置より上でバラケがバラ

けてしまって、肝心なくわせの周りにバラケが少なくなっている。だから、下方向にバラけるようにしたい。バラケ性を失わない素材で、硬さを増してやり、バラケのバラける位置を抑えてやる必要がある。この要望を満たすのが「セット専用バラケ」である。



エサの大きさ 実寸大

バラケ 直径1～3cm



※アタリがコンスタントにあるときは丸形。上からバラケさせたいときは雨だれ形で、チモトだけ抑える。大きめでガンガン寄せ釣る場合はラフ付け。

くわせ

ウドン

直径5～8mm



感嘆

直径3～5mm



基本セッティング

竿●8～9R

ミチイト●0.6号

ウキ●パイブトツプで

ボディ4cm(バラケが小さめるとき)

または6cm(バラケが大きめるとき)

足は、カーボンかソリッドでやや長め

ハリス●上0.4号、下0.3号

※長さ上ハリス5cm(バラケが小さめるとき)、7cm(バラケが大きめるとき)、下ハリス15～40cm

ハリ●上4号

下くわせタイプ

3号(ウドンが太めるとき)

2号(ウドンが細めるとき)

抜きバラケ釣法

バラけた粒子だけに興味を示して、肝心なくわせエサを食べなくなってしまうときに試したいのが「抜きバラケ釣法」だ。バラケエサをくわせエサの位置から離れたところにおいてしまい、先に落ちてきたくわせを食べさせてしまおうという考え方である。バラケが抜け切る位置を調整して、食いアタリを出す釣り方で、決まると頭抜けた釣果に結びつく。

バラケ/新B2+藻べら1+水1
+調整用セット専用バラケ

くわせ/細めのウドンか感嘆

●釣り方のコツ/柔らかいエサを打つので、短いサオで軽い仕掛けが基本。ポイントは、下ハリスの長さで、基準は15～20cm。厳寒期でも40cmまでと短くすること。付け方と大きさをバラケの抜け切る位置をコントロールする。食いアタリが出ないときは、バラケの抜け切る位置が上すぎると考えられる。そこで、「セット専用バラケ」を50ccずつ1回から4回くらいまで徐々に加えていき、抜け切る位置を深くしてアタリを出す。ウキはムクツップのほうがいい。